



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO.18 R5.12.15

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

大人になるということ ―抽象化する力を養う―

「学校で学ぶ」「大人になる」ということの意味の一つは“深く広く考えることができるようになる”つまり“抽象的思考ができるようになる”ことだと思います。

幼い子どもは具体の世界に生きています。日常の毎日が世界の全てです。成長に伴ってそれぞれの具体を束ねて「それってこういうことなのか」というふうにまとめ、整理できるようになります。逆に「こういうことからするとあの場合にも当てはまるのではないかと推測できるようにもなります。いわゆる帰納と演繹です。

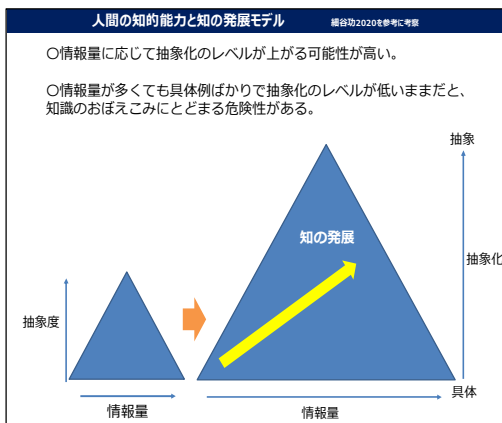
国語の話をしましょう。

私は小学生の時、新見南吉の「ごんぎつね」が好きでした。何度読んでもそのたびごとに泣きました。逆に泣きたいときには「ごんぎつね」を読みました。そして考えました。「これは“兵十”が“ごん”を誤って撃ち殺してしまう悲しい物語」というだけではなく「人間と動物が心を通い合わせようとする物語」ひいては「思いを通わせようとする者の間に生じるすれ違い、すなわち“悲劇”の物語」ではないかと…。

もちろん小学生の私が一気にその考えにたどり着いたわけではありません。中学、高校と進級するに連れて抽象的に考えられるようになったからだと思います。

つまり「それってどういうこと?」「だから何?」と考え続けると「兵十とごん」の関係が「人間と動物」の関係に抽象化され、さらに「心を通わせる者どうしが引き裂かれることこそが悲劇」と考えるようになるわけです。これが抽象化です。

具体の中でしか生きられない人はたくさんの個別具体を記憶しなければなりません。御船山は天山より低い。天山は阿蘇山より低い。阿蘇山は富士山より低い。…これはこれで意味はありますが「富士山は日本で一番高い」ということが分かれば「天山は富士山より低いよね。阿蘇山も富士山より低いよね」ということが瞬時に分かります。上位概念を理解できれば下位概念が推測できる例です。



図は人間の知的能力と知の発展モデルをイメージしたもの。横軸の情報量の多寡は「問題には正解がある」「知らないより知っている方が偉い」といった考え方であり日常私たちが支配されがちな価値観です。

しかし縦軸の抽象化する力がないと人はいつまでも個別具体の知識をため込むしかなくなります。知識がなくていいと言っているのではありません。知識の量と合わせて抽象化の思考を鍛えるべきだと言いたいのです。

まずはこの「具体と抽象の層がある」というイメージを持つことが大事。議論がかみ合わない、コミュニケーションが取れない原因もその層のずれに起因することが多いのです。では抽象化する力を鍛えるにはどうすればいいのでしょうか。

それは、「なんで? (Why)」「だから何? (So,what)」「そもそもさ (In the first place)」

を常に自分の心に持つことです。抽象化を鍛える魔法の言葉。どの教科の勉強でもこれをつぶやく。すると格段に視野が広がります。お試しあれ！

お膝にだっこ - 育ちあい講座で笑顔満開！ -

12月上旬、2週にわたって1年生の家庭基礎の授業で『育ちあい講座』（武雄市との連携）を実施しました。これは「幼児との触れ合いをとおして幼児への理解を深め、これからの自分の生活や家族とのかかわりに関心を持つ」ことなどを目的に行われるものです。

1年生の各クラスの授業に武内保育園・ひまわり保育園・立野川内保育園・たちばな保育園・武雄くらら園・光の園保育園から園児が来校してくれました。

内容は高校生企画による園児との交流（遊び）で、高校生の実行委員会を中心とした事前取材に基づいた生徒主体の授業でした。

高校生は園児の笑顔や元気に励まされ、みるみる顔が柔和に。最後の集合時には膝に園



児を抱っこして頭をなでてやる姿も。

武雄高校は探究（深掘り）を大切にしています。今回の家庭科の授業でも現地取材（フィールドワーク）を踏まえ課題を発見、その解決に向けて自分たちで遊びを提案しました。

保育に対する興味・関心を高めることができたのはもとより、学び全体・生きること自体に対する意欲や生きる熱量を向上させることにつながったのではないのでしょうか。こうした経験を重ねることで主体性、自ら学ぶ姿勢が鍛えられるのです。

どぶろっく×書道部 -もしかしてだけど～

12月5日（火）、佐賀県出身のお笑いタレント”どぶろっく”さんが本校の取材に来られました！ サガテレビで放送中の「どぶろっくの一物」という番組収録です。

「一物（いちもつ）」とは「ナンバーワンやオンリーワン」という意味で、どぶろっくのお二人が自信を持って紹介できる地元の物や人を紹介するというコンセプトの番組だそうです。本校にもたくさんの「一物」がありますが、今回は書道部の活動を紹介していただきました。

人をこきおろしたり、自分をさげすんだりしてその落差で笑いを引き出すことはよくあります。しかしこの2人は「人のことを悪く言わない、人を責めない」といったところを感じました。（私も詳しく調べたわけではないので勝手なイメージです。）

撮影に気がついた他の生徒さんや先生方にもわかに参集。当日の様子は番組本番をご覧ください。放送は1月6日（土）17時59分オンエアです！ 乞うご期待！



（閑人閑話）修学旅行に行ってきた。旅先でいくつかの嬉しいことがあった▼一つは行きの飛行機の中。キャビンアテンダントの方が「私も武雄高校です。8年前に在学していました」とのこと。卒業生が修学旅行団に声をかけてくれるとは有り難い。名前を聞いておけばよかったと後悔▼二つ目。食事をしたレストランの店主さんやスキーインストラクターさん、帯同していただいた看護師さんから「いい生徒さんですね」のお言葉。誇らしかった▼もう一つ。喧噪の新千歳空港内での解団式。聞き取りづらかっただろうのに私の声に耳を傾けてくれた人がいた。感激（昌）

【当面の主な予定（12月後半）】
18日（月）三者面談（21日まで）
22日（金）終業式
23日（土）北予備ファイナル
25日（月）冬季補習
※1/5補習再開
1/6～7県一斉模試

【お礼】12月5日クラスマッチが開催されました。皆さん楽しめましたか？生徒会のメンバーが連日遅くまで準備し、当日の運営にも大忙しでした。まさに主体的な学校行事でした。ご苦労さまでした。